

成を開始します。

新型コロナウイルス感染症の予防接種法による特例臨時接種は、3月末に終了します。来年度からは、インフルエンザと同じ定期接種として、秋冬の時期に1回、65歳以上の高齢者と一定の基礎疾患を有する60歳から64歳までの方を対象に実施する予定です。

安全・快適、みどりあふれるまち

●都市インフラの整備とまちづくりの推進等

都市インフラの整備とまちづくりは、計画的に進めていく必要があります。

都市計画道路は、第四次事業化計画に基づき、着実に整備を進めます。計画期間は7年度までとなっており、社会情勢の変化や道路機能のニーズを考慮し、8年度以降に向けた検討に着手します。

大江戸線の延伸は、昨年3月から、都の庁内検討プロジェクトチームで検討を進めています。区は、事業着手を確実なものとするため、大江戸線延伸推進基金は来年度まず30億円、その後も計画的に積み増していきます。新駅予定地周辺のまちづくりを進め、新たな拠点整備に取り組みます。



事業着手を確実にするため、大江戸線延伸推進基金を30億円積み増します

西武新宿線の連続立体交差事業、鉄道と交差する都市計画道路補助230号線及び武蔵関駅交通広場は、近く都市計画事業認可を取得し、事業に着手します。引き続き、都、鉄道事業者、沿線区市と連携し、整備を進めます。

地域特性に合った誰もが移動しやすい交通体系を構築するため、8年度を目途に新たな地域公共交通計画を策定します。まずデマンド交通の実証実験を行い、計画の実効性を高めます。

石神井公園駅南口西地区市街地再開発事業は、先月、権利変換計画の認可を取得しました。地区内に居住・営業している方々の移転ののち、既存の建物の除却を行い、来年度に再開発ビルの新築工事に着手します。区は引き続き、円滑な事業実施に向け、再開発組合の取組を支援します。

●バリアフリーの促進

誰もが安心して快適に移動できる環境の整備に向けて、鉄道駅の更なるバリアフリー化に取り組みます。

光が丘駅南側出入口では、昨年エスカレーター及びスロープが完成しました。現在、東京都がエレベーターの整備を進めており、来年度供用開始の予定です。

鉄道駅のホームドアは、来年度、西武鉄道により石神井公園駅、練馬高野台駅で整備されます。区は、補助金を増額し、整備を促進します。引き続き、未着手駅の早期整備を働きかけていきます。

●管理不全状態の空き家対策

平成27年度調査で約1,500棟あった区内の空き家は、空き家対策事業を通じて、昨年末までに463棟となりました。特に老朽度が高いと判定された30棟は、除却等により全て解消しています。

昨年12月に施行された、「空家等対策の推進

に関する特別措置法」の一部改正を受け、「管理不全空家等」への指導・勧告を来年度から開始するため、本定例会に条例改正案を提出しています。

●練馬のみどりを未来へつなぐ

練馬のみどりを未来へつなぐため、引き続きみどりの拠点の整備や、区民との協働による保全、創出に取り組みます。

長期プロジェクトである稲荷山公園については、「武蔵野の面影」の再生に向けて段階的な整備のロードマップを作成します。造園や動植物など各分野の学識経験者で構成する専門家委員会の意見を聴きながら検討を進めます。大泉井頭公園では「水辺空間の創出」をテーマに、基本計画策定に向けた基礎調査を実施します。

平成つつじ公園は、練馬駅前立地する区の顔となる公園です。開園から30年を迎え、全面改修に向けて設計に着手します。あわせて、トイレのリニューアルを行います。まちのイメージアップを目指す「公園等トイレ改修等基本計画」のリーディングプロジェクトとして、子どもたちからデザインやアイデアを募集しており、来年度設計コンペを実施します。

こどもの森の拡張に向け整備基本計画を改定します。ツリーハウスの体験会などを通じて、子どもをはじめ区民の皆様の意見を伺いながら進めていきます。

民有のみどりの保全、創出に取り組みます。保護樹木等の所有者の負担軽減や適切な剪定を促進するため、剪定費補助の上限額を大幅に引き上げ、頻度を3年に1回から2年に1回とします。区民の目に映るみどりを増やすため、開発事業者などにヒアリング調査を実施し、緑化基準の見直しに着手します。公共施設の基準は、民間施設に先行して来年度に改定します。

●脱炭素社会の実現に向けた環境施策

区は、2050年のゼロカーボンシティ実現に向けて、2030年度までに区内のCO₂排出量を2013年度比で46%削減する目標を定めています。

友好都市の上田市において、区が行う森林整備で吸収されるCO₂を、区内の削減量とみなす、カーボンオフセット事業の検討に着手します。家庭部門に由来するCO₂の削減を更に加速するため、既存住宅等の省エネ化・再エネ導入を支援するカーボンニュートラル化設備設置等補助金を拡充します。事業者と連携して、家庭から排出された使用済みペットボトルを新たなペットボトルにリサイクルする取組を進めます。

いきいきと心豊かに暮らせるまち

●産業・商店街振興

区内経済の発展に向け、意欲的に新商品・新サービスの開発を進めている事業者に対し、事業計画の策定から実行まで伴走して支援し、必要な費用を補助します。個々の商店街活動の枠を超え、商店会同士や個店同士が連携して行う、イベント等への補助制度を創設します。

●都市農業振興と都市農地保全

都市生活に豊かさや潤いをもたらす都市農業は、練馬区の誇りです。

「高松みらいのはたけ」では、誰もが農に親しめる身近な施設を目指し、ひまわりや菜の花など季節を感じられる花の作付けや、畑で採れた野菜を使用した食育体験などを実施します。

区内農業者それぞれの農業経営に応じて、提案型の支援を実施します。JA東京あおばの全戸訪問や農業委員会の農地調査と連携し、全ての農業者の営農状況をヒアリングしながら、支援メニューを作成・提案していきます。

世界都市農業サミットに続く、全国都市農業フェスティバルの成功をバネとして、次回のフェスティバルを7年度に開催します。来年度は、フェスティバルの被招聘都市等とともに、プレイベントを

開催します。フェスティバル参加都市との意見交換を継続して連携を深め、引き続き、練馬区が全国の先頭に立って、都市農業への理解促進と更なる発展を目指していきます。

●美術館・貫井図書館の全面リニューアル

美術館と貫井図書館は、平田晃久氏による基本設計が完了し、今年度中に実施設計に着手します。収蔵作品を常設でご覧頂ける展示室や「ブック・アート・キッズスペース」、多目的室を新設するなど、延床面積を全体で1.8倍に拡大する計画です。大型エレベーターなどを備え、ストレッチャー型の車椅子で気軽に鑑賞できる、年齢や障害に関わらず、誰もが楽しめる施設としていきます。美術館と一体となった中村橋駅周辺の街並み整備に向けて、平田晃久氏監修のもと「美術のまち構想」を策定します。



美術館・貫井図書館を、年齢や障害に関わらず誰もが楽しめる施設として全面リニューアルします

●電子図書館の実現

電子書籍貸出しサービスを導入し、電子図書館を実現します。全児童生徒に配付しているタブレットパソコンを使った読書活動の推進、文字拡大や読み上げ機能などによる障害者や高齢者の読書活動支援を行うほか、地域資料のデジタルアーカイブ化に取り組みます。利用カードを電子化し、来館しなくても利用登録や図書貸出しができるようにします。

区民とともに区政を進める

区長就任以来、あらゆる分野で、区民の皆様とともに協働の取組を進めてきました。冒頭申し上げましたとおり「攻めの防災」を加速するにも、区民の皆様との協働が不可欠です。

町会・自治会は区政最大のパートナーです。役員の負担軽減、担い手不足の解消、新規加入の促進を目指して、デジタル活用を拡げていきます。個別にヒアリングを行い、個々の状況に合わせてきめ細かく支援していきます。

地域おこしプロジェクトをリニューアルし、ねりま協働ラボを開始します。区との協働で地域課題の解決を目指す未来創造チャレンジ、町会・自治会や地域活動団体が協働して取り組むコラボチャレンジを募集します。来年度中に対象事業を決定し、7年度にスタートします。

おわりに

区長に就任して10年になります。参加と協働を根幹に据えた区政運営を進め、政策面では、数々の練馬区モデルにより、全国自治体を先導してきました。その努力が実を結び、練馬区の福祉医療サービスは飛躍的に充実し、都市インフラの整備は大きく前を進みました。

これまでの取組を着実に継続・発展させながら、その上に立って、みどり、文化、スポーツ、都市インフラなど、区民生活をより豊かにする施策に更に力を入れ、ランドデザイン構想で示す練馬区の目指すべき将来像を実現する。そのための「第3次みどりの風吹くまちビジョン」であり、これに基づく来年度予算です。着実に実行し、子どもから高齢者まで、誰もが安心して心豊かに暮らせるまちを創りたい、固く決意しています。区議会の皆様、区民の皆様のご理解、ご協力をお願いします。